

平成30年(2018年)10月のサハリン州及び沿海地方における
能楽公演(説明書2(1))の実施に関する仕様書

1 日程案

2018年10月2日(火)		ユジノサハリンスクへ移動 (ユジノサハリンスク泊)
10月3日(水)	(午前)	ホルムスク市へ移動
	(午後)	公演準備, リハーサル
	(夕方)	公演① (1時間~1時間半程度。終了後にマスコミ取材。以下同。) (ユジノサハリンスク泊)
10月4日(木)	(午前)	公演準備
	(午後)	公演準備, リハーサル
	(夕方)	公演② (ユジノサハリンスク泊)
10月5日(金)	(午前)	ウラジオストクへ移動
	(午後)	ナホトカ市へ移動, 公演準備, リハーサル
	(夜)	公演③ (ナホトカ泊)
10月6日(土)		
	(舞い手1名)	(午前) ウラジオストク市へ移動
		(午後) 公演準備, リハーサル
		(夜) 公演④ (ウラジオストク泊)
	(ほか5名)	(午前) ウラジオストク空港へ移動
		(午後) 成田へ移動
10月7日(日)		成田へ移動

※6, 7日の日程は1名のみ。そのほかの者は6日にウラジオストクから帰国。

2 開催都市・会場候補

(1) ホルムスク市, ユジノサハリンスク市

会場: ①②ともに場所未定(600名程度収容を目安とする。)

(2) ナホトカ市, ウラジオストク市

会場: ③ナホトカ文化センターなどを想定(600名程度収容可能。会場費として120,000ルーブルを計上すること。)④プーシキン劇場

などを想定（400名程度収容可能。会場費として80,000ルーブルを計上すること。）

3 事業概要

「ロシアにおける日本年」の枠組で、サハリン州及び沿海地方にて能楽公演を実施する。本邦から能楽師（観世流能楽師の勝海登氏（重要無形文化財総合指定保持者）などを想定。）や囃子方計6名を派遣し、日本の伝統芸能を広く極東地域住民に親しんでもらう機会を提供し、日本文化への理解の深化をはかる。

4 日本からの参加予定人数 計6名（6, 7日は舞い手の1名のみ）

シテ方（舞い手と舞い手補佐で2名）、囃子方（大鼓、小鼓、笛 など楽器を演奏する人が合計4名）。

5 必要予定経費

- (1) 謝金（1公演500ドル/人）
- (2) 日本国内移動費（各人都内⇄成田）
- (3) 航空賃（成田→ユジノサハリンスク、ユジノサハリンスク→ウラジオストク、ウラジオストク→成田）
- (4) 宿泊費（シングル4部屋、ツイン1部屋（6日はシングル1部屋のみ））
- (5) サハリン州、沿海地方内移動費（車両借り上げ等。車両は人員、荷物合わせて1台とする。）
- (6) 食費
- (7) 会場費
- (8) 広報宣伝費（事前集客に係る広報活動費、パンフレット制作費を含む）
- (9) 当日の舞台における司会者経費（演者による司会進行は行わず、冒頭及び最後のアナウンスを司会者が実施）
- (10) 通訳雇用費（（舞台、インタビュー及び移動時等。ホルムスクーユジノサハリンスク公演で1名、ナホトカーウラジオストク公演で1名をそれぞれ現地で手配する）
- (11) その他事業実施に関する一切の経費

5 備考

- ・舞台は4m×4m以上とし、ステージ背景を投影するスクリーンを手配すること。
- ・舞台からの落下防止と演技上の目印として、ステージのキワに2箇所とステージのセンター後方に1箇所、1m～1.5mの高さがあるオブジェ（生花など植物）を用意すること。
- ・必要備品手配（譜面台など）、会場ピアノ調律を行うこと。

- ・チケットは有料とし、各都市適当な価格で販売する。売上は会場側による集客・広報活動等に活用すること。
- ・ウラジオストク市での公演は収録音源（手配不要）により行う。
- ・ウラジオストク市以外での出演者の宿泊部屋はシングル4部屋、ツイン1部屋（ウラジオストク市ではシングル1部屋のみ）。
- ・公演で使用する大小道具は、別添の通り。
- ・記録用の動画及び写真を撮影し、翌日中に記録メディアを提出する（ホルムスク及びナホトカ公演の2回分）。

（了）